

小・中学校統合及び 義務教育学校の設置について

2026.1.19 桑折公民館（町民会館）
1.20 睦合公民館（睦合ふれあい会館）
1.21 伊達崎公民館
1.22 半田公民館（半田コミュニティセンター）
1.25 屋内温水プール・多目的スタジオ「イコーゼ！」

桑折町教育委員会

もくじ

- ① 桑折町の小中学校の現状
- ② これまでの検討経過
- ③ 町・教育委員会の方針
- ④ 義務教育学校の概要
- ⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果
- ⑥ 施設整備方針
- ⑦ 今後のスケジュール

① 桑折町の小中学校の現状

赤 枠 = 複式学級編制

1クラスの児童生徒数上限は原則35人
2学年の合計が16人以下（ただし、1年生を含む場合は8人以下）で複式学級が編制される

令和7年度児童生徒数 (R8.1.5現在) 単位：人

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
醸芳小	42	55	36	42	42	57	274
睦合小	2	2	6	3	10	9	32
半田醸芳小	8	18	13	16	21	12	88
伊達崎小	16	14	13	21	3	17	84
小学校計	68	89	68	82	76	95	478
醸芳中	77	93	70	—	—	—	240
小中学校合計							718

令和12年度児童生徒数 (R8.1.5時点での見込) 単位：人

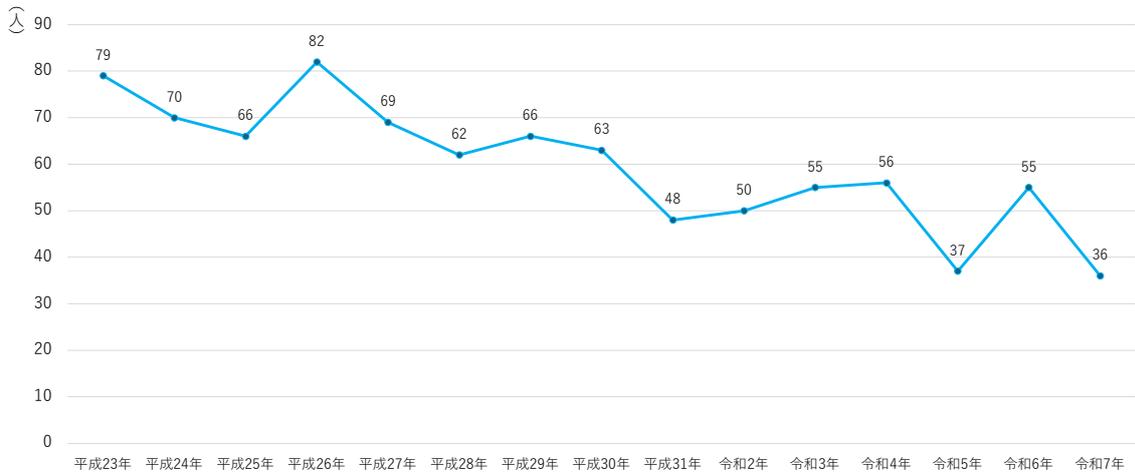
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
醸芳小	37	29	49	48	33	42	238
睦合小	4	4	7	9	5	2	31
半田醸芳小	7	8	9	7	14	8	53
伊達崎小	3	5	5	8	5	16	42
小学校計	51	46	70	72	57	68	364
醸芳中	89	68	82	—	—	—	239
小中学校合計							603

- 現在は、睦合小学校で複式学級が編制されている。
- 想定では、伊達崎小学校では令和10年度、半田醸芳小学校では令和11年度から複式学級が編制される。
- 醸芳中学校では、学級数が少ないため、配置される教員数が少なく、免許外教科担任が発生している。

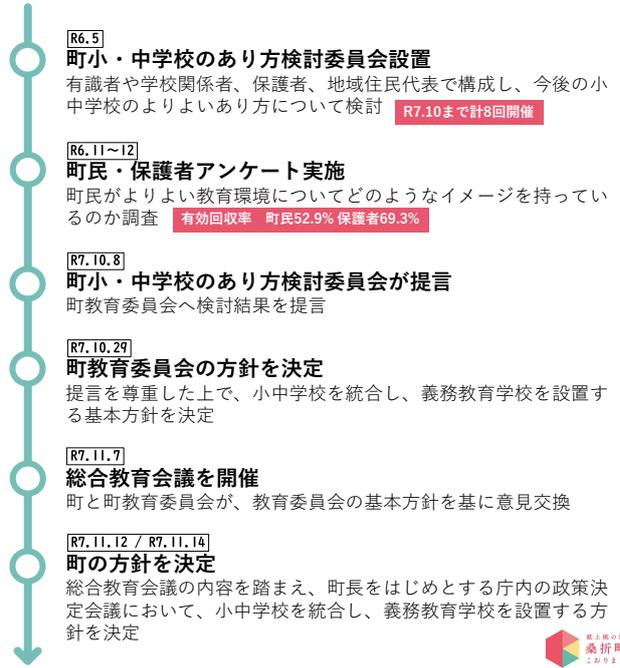
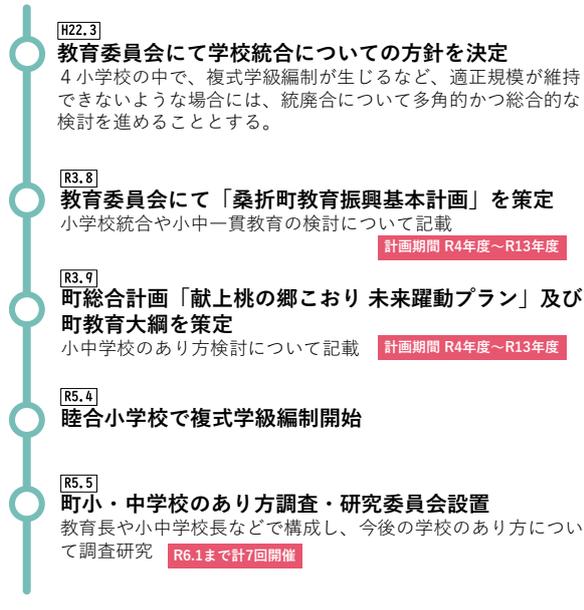


① 桑折町の小中学校の現状

町内出生数の推移 【出典】H23～R6年：福島県現住人口調査年報、R7年：住民基本台帳

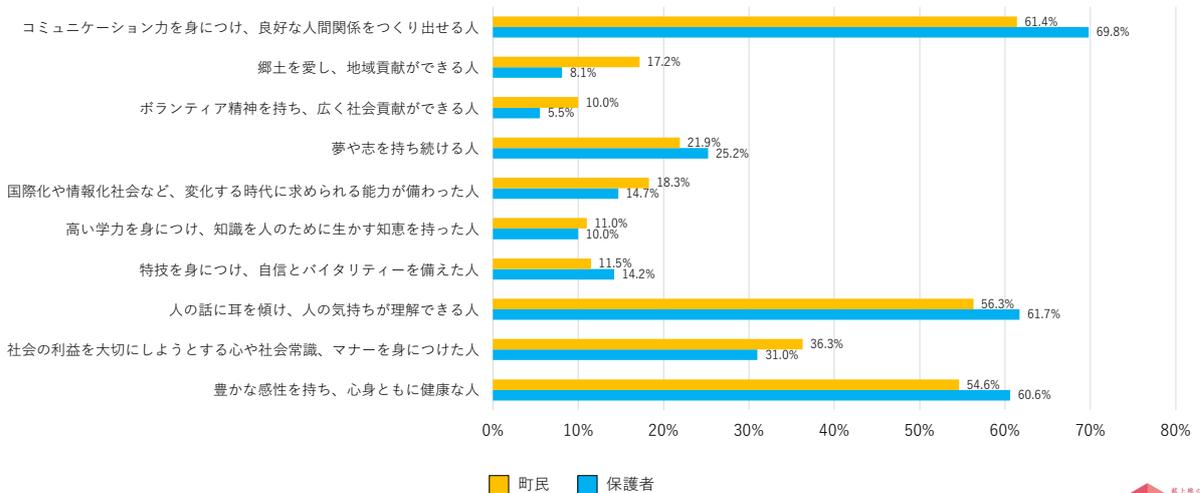


② これまでの検討経過



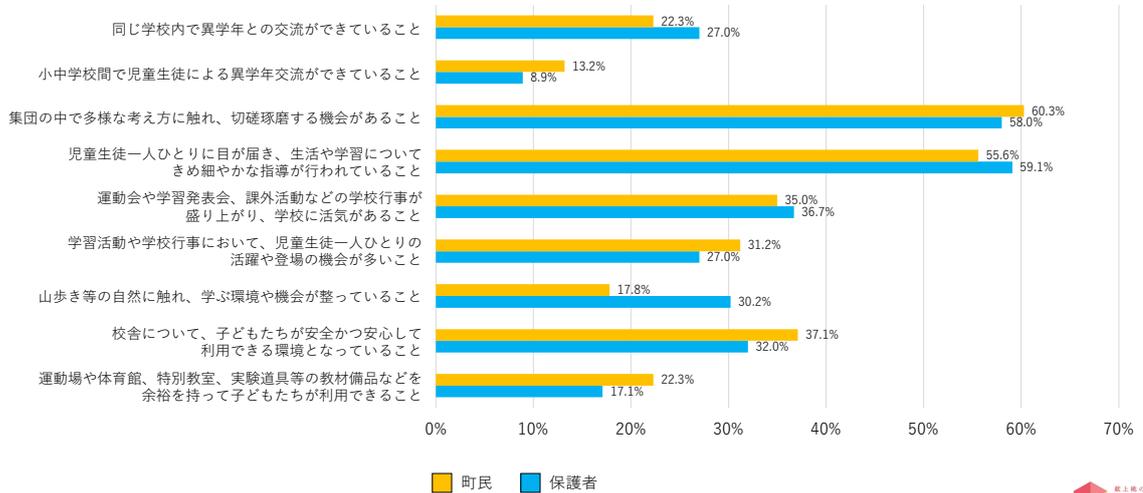
② これまでの検討経過

Q 学校教育を通して、本町の子どもがどのような人に成長してほしいと思いますか。(3つまで回答可)



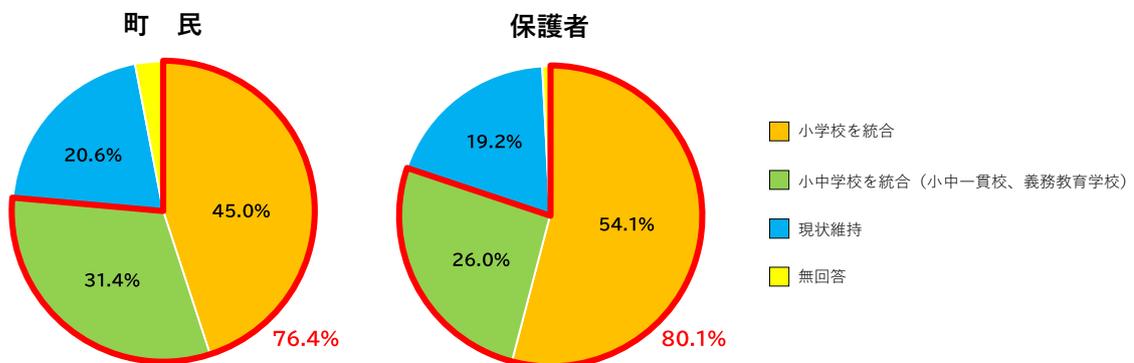
② これまでの検討経過

Q 本町の学校教育における教育環境について、重要だと思うものはなんですか。（3つまで回答可）



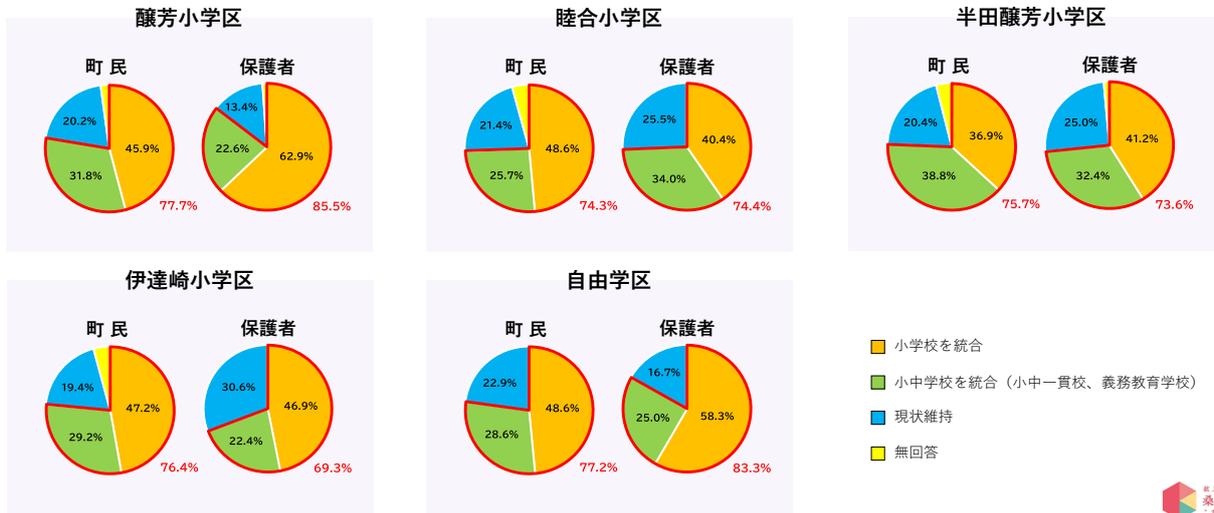
② これまでの検討経過

Q 今後、社会変容や年少人口の減少が進行しますが、子どもたちにより良い教育環境を提供し続けるためには、次のどの方法が望ましいと思いますか。



② これまでの検討経過

Q 今後、社会変容や年少人口の減少が進行しますが、子どもたちにより良い教育環境を提供し続けるためには、次のどの方法が望ましいと思いますか。



③ 町・教育委員会の方針

教育委員会の方針 R7.10.29決定

桑折町教育委員会は、桑折町教育振興基本計画に基づき、少子化への対応や学校運営の改善を行うべく検討を進めている中で、今後の桑折町の小・中学校のよりよいあり方について、桑折町小・中学校のあり方検討委員会を設置し、幅広い視野と長期的な見通しを持って総合的な検討を行ってきた。

桑折町小・中学校のあり方検討委員会からの提言を踏まえ、本町の教育の質を維持・向上させ、将来にわたって安定した教育を提供し続ける方法として、中一ギャップの解消、継続的な教育の実現と柔軟なカリキュラム構築、質の高い教育の提供、異学年交流の促進などを勘案した結果、桑折町の小・中学校のあり方の基本方針については下記のとおりとする。

記

1. 現状の急速に進む少子化による児童生徒数減少や学校の小規模化への対応、小中一貫教育を推進するため、**可及的速やかに義務教育学校を設置する。**
2. 統合後の義務教育学校の施設・設備については、今後検討する。
3. コミュニティ・スクールの導入については、今後検討を進める。
4. 義務教育学校設置に係る詳細な協議・検討の場として、学校・保護者・地域の代表者・有識者等による**義務教育学校設置準備委員会（仮称）を新たに組織する。**



③ 町・教育委員会の方針

町の方針 R7.11.14決定

桑折町立学校の今後の方針については、令和7年11月7日の総合教育会議において町教育委員会から示された「桑折町立小・中学校のあり方に関する基本方針」を尊重し、下記のとおり定める。

記

○町立小学校4校及び町立醸芳中学校を統合し、**可及的速やかに義務教育学校を設置する**。については、**建設候補地を町立醸芳中学校敷地内とすることを前提とし**、設置に向けた調査に着手する。



④ 義務教育学校の概要

(1) 従来との違い

従来の小中学校



義務教育学校



④ 義務教育学校の概要

(2) 義務教育学校と小中一貫校の違い

	義務教育学校	小中一貫校
法的位置づけ	学校教育法に規定された 正式な学校種 (2016年制度化)	法律上は、小学校と中学校は 別組織 ※法律用語ではなく、教育行政上の施策名称
組織	1つの学校 として運営 ※通常 校長1名、副校長1名、教頭2名、主幹教諭1名	2つの学校を連携 して運営 ※通常 各校に校長1名、教頭1名
学年の区切り	1～9年生 （前期課程6年+後期課程3年） ※区切りの運用で、4-3-2や5-4など工夫が可能	小1～小6/中1～中3 ※連携の度合いに応じてカリキュラムや行事を接続
カリキュラム	小中の学習指導要領を踏まえつつ、 9年間継続 した 教育課程や学校目標を設定	小中で連携 したカリキュラムを設定 ※別組織なので密な調整が必要
児童生徒の流れ	入学は1年生のみで、 後期課程 へは進学ではなく 進級 ※指導要録は校内で継断共有	通常の小中学校と同様の取り扱い ※進学時に指導要録の引継ぎが必要となる
教員の相互乗入	1つの学校なので 自由に担当可能	別の学校同士のため、教育委員会から 兼務辞令等の 手続きが必要 となる ※多くは、特別活動・総合学習・研究授業の形で行われる
部活動顧問	1つの学校なので 自由に担当可能	他校の顧問は教育委員会からの兼務辞令等があれば 例外として担当可能 ※実際の運用は補助顧問・支援員として関わる人が多い
教職員の業務負担	職員会議や校務分掌が 1本化 される	小中で会議が二重 となり、さらに 小中の連携会議が必要 。 また、同じ校務分掌でも学校が別のため 各学校で担当が必要 。



④ 義務教育学校の概要

(3) 解消すべき中1ギャップとは



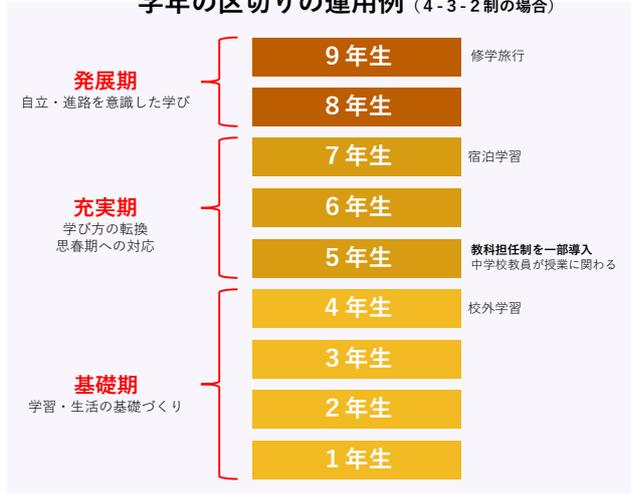
小学校から中学校への進学時に生じる**環境の変化**が大きく、**子どもが適応できなくなる**



④ 義務教育学校の概要

(4) 特徴（新たなブロック制）

学年の区切りの運用例（4-3-2制の場合）



他にも

- ブロックごとに学習目標を設定
 - ブロックごとに校則・生活のルールを設定
 - ブロックごとに校内行事を実施
 - 小中学校教員がブロックごとにチームを組む
 - 児童生徒の情報をブロックごとに整理
- etc...



**発達段階に応じた
教育体制を構築可能**
**急激な環境変化の抑制による
中1ギャップの解消**



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

① 発達段階に応じた教育環境の整備

- ・複式学級から単式化することにより、子どもの発達段階に応じたきめ細かな指導が可能となる。
- ・中学校教員の前期課程における授業（乗り入れ授業）を実施し、前期課程から教科担任制を導入するなど、教員の専門性を活かした教育の提供が可能となる。
- ・9年間一貫した教育目標の下で指導が可能となるほか、従来の小6-中3という区切りに捉われず、子どもの発達段階に応じた最適な期間で区切ることが可能となる。



**発達段階に応じた
きめ細かな教育の提供**



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

^{メリット}② 授業形態の多様化

- ・グループ学習や討論、実験・観察、球技など、ある程度の人数がいないと成立しにくい学習活動が日常的に実施可能となる。



現在、睦合小学校では1・2年生が2人ずつ、伊達崎小学校では5年生が3人であり、学習活動等に制約がある



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

^{メリット}③ 免許外教科担任の解消

- ・小学校教員も後期課程で授業を持つことが可能なため、免許外教科担任の解消が期待され、より専門的な指導が可能となる。



現在、醸芳中学校では、家庭科の免許を持った教員がいないため、別の教科の免許しかもっていない教員が家庭科を教えている



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

^{メリット}④ 地域学習の深化

- ・一つの学校において、桑折町全体の歴史文化として学習が可能となる。



現在は校区ごとの地域学習を行っているが、桑折町全体の歴史文化を学ぶことができる



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

^{メリット}⑤ 適正規模での教育

- ・クラス替えが可能となるほか、多様な人間関係の中で様々な考え方に触れる機会の確保が期待される。



現在、醸芳小学校以外の3小学校では各学年のクラス数が1つであり、人間関係の固定化が懸念される



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

^{メリット}⑥ 異学年交流の促進

- ・従来接点の少なかった前期課程と後期課程の児童生徒の交流により、社会性の育成や規範意識の向上が期待される。



上級生は下級生の手本となる経験を通して、自己肯定感・責任感を育み
下級生は将来の自分の姿を日常的に見ることで、学習や生活への見通しが持てる



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

^{メリット}⑦ 中1ギャップの解消

- ・9年間同じ教育環境の中で学校生活を送ることにより、進級におけるギャップが生じにくく、不登校の未然防止や学習意欲の低下防止が期待できる。



一つの学校に一つの教員組織で子どもの成長をサポートし、
急激な友人関係の変化もないため、進級時のギャップがなだらかになる



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

⑧ 地域連携の深化

- ・ 9年間同じ学校で学ぶことで、学校組織・保護者組織も一つとなり、学校・保護者・地域の連携のさらなる深化が期待される。



町全体で桑折町の子どもたちの成長を見守ることができる



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

⑨ 教職員の負担感軽減

- ・ 管理職等が増員となり、教頭等の校務負担感の軽減が期待される。
- ・ 小学校教員も部活動指導に関わることが可能となるほか、中学校教員が前期課程で授業を持つことで、教職員の負担感の大幅な軽減が期待される。



各種校務の分担や前期課程担任の負担軽減により、教材研究や子どもたちと触れ合う時間を確保

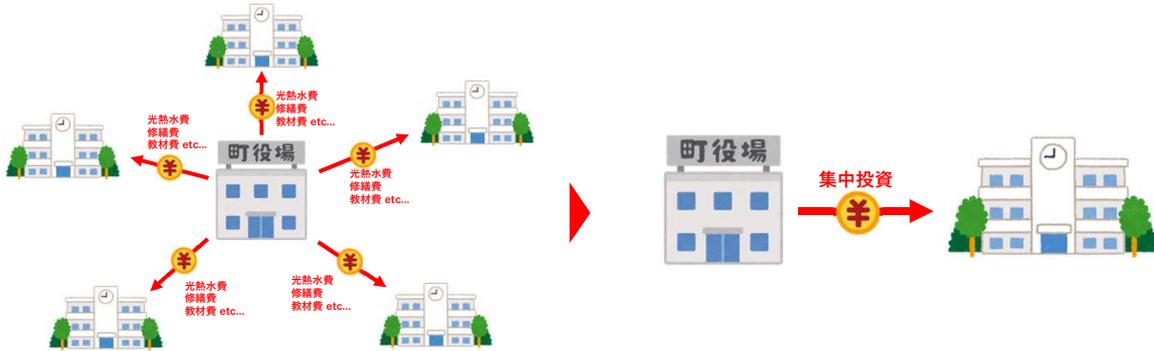


⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

メリット

⑩教育関連予算の集中

- 各校にかかっていた教材、施設設備等の予算を一校に集約して活用することができ、限られた財源を最大限に活かした質の高い教育環境の整備が期待される。



教育関連予算を1校に集中できるため、さらなる教育環境の整備を目指します



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

考慮すべき点

①通学距離・時間について

- 一番距離のある睦合小学校からで約3.1km離れているほか、その他の小学校とも距離があり通学に負担が生じる。



徒歩



スクールバスを運行

※距離要件等は設定予定

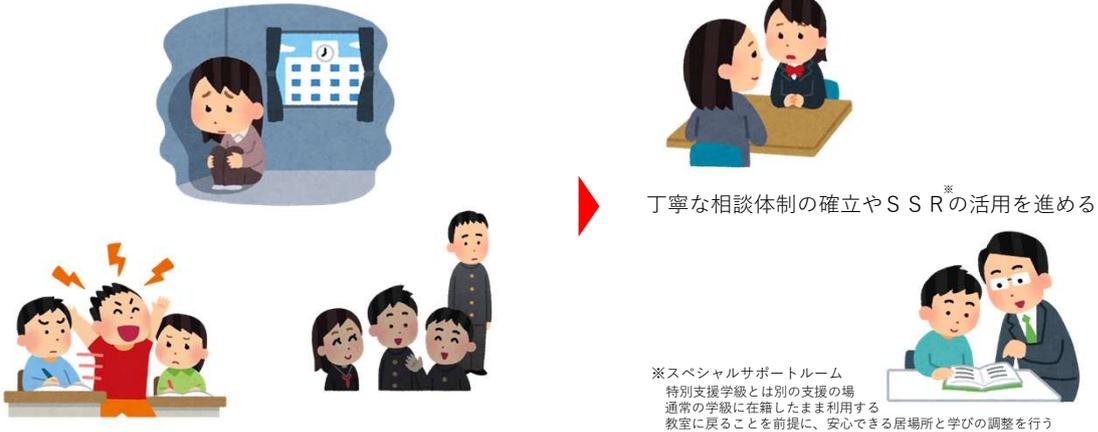


⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

考慮すべき点

② 少人数指導を望む子どもへの配慮について

- ・学校規模が大きくなると環境の刺激が増え、少人数での丁寧な関わりを必要とする子どもにとっては負担になる可能性がある。



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

考慮すべき点

③ 地域コミュニティへの影響について

- ・地域コミュニティの核であった小学校が廃校となるため、地域と子どもたちとの関係が薄まるのではないかと懸念がある。



これまでの地域学習は継続して行うとともに、新たな学習方法についても検討し、
地域の方々が学校に関わる機会を増やすカリキュラム編成を行う
地域行事や伝統行事に子どもが地域の担い手として関わる仕組みづくりを行う



⑤ 設置におけるメリット・考慮すべき点と期待される効果

期待される効果

○一人ひとりが大切にされ活躍することを目指す教育

柔軟なカリキュラム構成や9年間一貫した教育目標による教育環境を整備することにより、児童生徒一人ひとりに寄り添った学びの提供が期待される。

○社会の変化に対応し、様々な課題解決に資する教育

児童・生徒が多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することによって、思考力・表現力・判断力・問題解決能力を育み、社会性や規範意識の習得が期待される。

○学校と地域の連携を図った教育

地域全体で子どもたちの成長を見守り、地域学習の再構築を行うことにより、さらなる郷土愛の醸成が期待される。



町の教育目標

「桑折町の15歳の目指す姿」の実現

～人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、
たくましく未来を切り開いていく桑折っ子～



⑥ 施設整備方針

小中学校校舎・体育館の状況

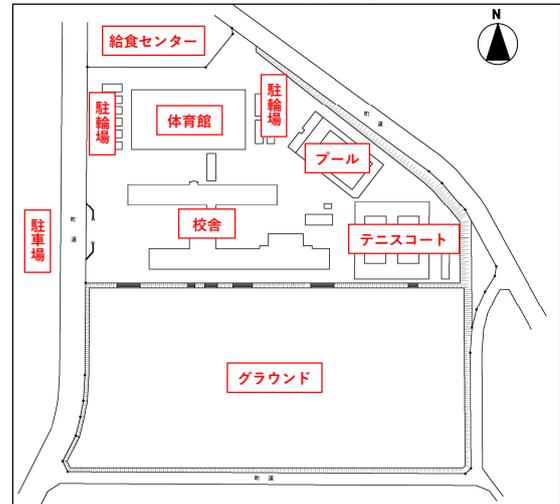
学校名	区分	取得年度	経過年数	延床面積
醸芳小学校	校舎	1969 (昭和44)	56年	3,227.30㎡
睦合小学校	校舎 体育館	1982 (昭和57) 1995 (平成7)	43年 30年	1,825.44㎡ 815.10㎡
半田醸芳小学校	校舎 体育館	1988 (昭和63) 1988 (昭和63)	37年 37年	3,301.00㎡ 972.00㎡
伊達崎小学校	校舎 体育館	1976 (昭和51) 1978 (昭和53)	49年 47年	2,134.67㎡ 604.58㎡
醸芳中学校	校舎 体育館	1992 (平成4) 1992 (平成4)	33年 33年	6,587.10㎡ 2,313.00㎡



⑥ 施設整備方針



醸芳中学校敷地図



⑦ 今後のスケジュール

